

令和8年度 第1回 学校運営協議会議事録

校名	府立むらの高等支援学校
校長名	清水 幸雄

開催日時	令和 8年 7月 14日 (火) 15:30～17:00
開催場所	1F 校長室
出席者 (委員)	(会長) 土口 千恵子 (副会長) 石神 彰人 (委員) 上國料 洋子 山中 勇 岩崎 綾子 ※順不同、敬称略
出席者 (学校)	【事務局】(教頭) 林 佳巨 (事務長) 浦 純子 重松 亮 富田 大士 森本 太一朗 福山 雄志
傍聴者	なし
協議資料	① 協議会次第 ② 協議会委員名簿 ③ 参加者名簿 ④ 実施要項 ⑤ 協議会傍聴に関する要領 ⑥ 令和7年度/令和8年度 学校経営計画及び評価 ⑦ 令和8年度/令和9年度教科書採択一覧表 ⑧ 令和8年度時間割 ⑨ 令和8年度教育課程表 ⑩ 校時表 ⑪ 前期授業参観アンケート集計結果 ⑫ 進路年間計画、9期生進路状況一覧
備考	後日、議事録を学校ホームページで公開

議題等 (次第順)	
1) 資料確認	・・・教頭より
2) 校長挨拶	・・・校長より
3) 委員、事務局紹介	・・・教頭より
4) 協議会実施要項・運営計画	・・・教頭より
5) 報告	- 意見書の提出について、今回はなし - 令和7年度 学校経営計画/評価、及び令和8年度学校経営計画について (校長) - 令和8年度採択教科書紹介および令和9年度採択教科書選定状況について (教務部長) - 令和8年度授業時間割・教育課程について (教務部長) - 前期授業参観アンケート集計結果について (教務部長) - 進路指導計画及び第9期生の進路状況について (首席・進路指導部長) - その他
6) 協議・質疑応答	
7) 校長挨拶	・・・校長より
8) 閉会	
協議内容 (質問・意見の概要)	
【委員からの意見交換及び協議】 <授業アンケートについて> - 授業参観は授業参観用の計画を立てているのか。 →毎回の授業を準備する中で、今までの経験値から生徒の興味関心を引くことができるものを適宜加え、授業を行っている。 <一人一台端末について> - ICT機器を使用するにあたり、タブレットだけでなくパソコンの利活用について学ぶ機会はあるのか。 →【情報】の授業の中で、タイピングの練習やインターネット検索、情報モラル等の学習を行っている。また、クラブ活動の中に【ICT部】があり、パソコンに触れる機会が多い。 - タブレット端末は貸与か。 →GIGAスクールの一人一台端末を貸与し、各授業等で使用している。部活動や授業では情報処理	

室のパソコンを使用している。

- ・高等支援学校として具体的に授業等でどのように活用しているか。

→一例として、【クリーニング】の授業では、指導者が見本を示し、それを生徒が自分のタブレット端末で動画を撮る。そうすることで、家でも振り返りを行うことができる。また、教員間のデータの共有にも役立てることができる。他の授業でも各教室のモニター（電子黒板等）を活用し、生徒の回答を生徒全体への共有に活用している。アプリ（授業支援クラウドサービス）も活用し、提出物、情報共有に役立てている。

<デジタルの活用、働き方改革について>

- ・働き方改革を具体的に教育現場でどのようにしているか。

→実習の付添、指導を細かくしていることが本校の強みでもあり、一例を挙げれば遅刻、欠席、その他トラブル等の報告も含め、社会に出ていくために必要な生徒の力を育むという観点から考えると、電話連絡をさせたい。しかしながら、それを実践していくと、時間外勤務という教員側の負担問題が必ず出てくる。生徒のことを考えると、簡単に切り落とせるものでもないため、悩んでいる。

- ・17時以降の連絡はどのようにしているのか（17時以降の電話回線の問題）

→時間外の連絡については17時半までは学校電話へ、それ以降は学校用携帯で受けている。曜日によってはフォームを活用しており、所在不明が出ないよう安全確認を最優先している。3年生については5月～10月くらいまでは随時実習に出ていく関係で、常時連絡体制をとっている形となっている。働き方改革とは逆行した形で体制をとらざるを得ない。

→メリットデメリットを考えると外せないことと思うが、時間外の勤務をお願いしなければならないことが悩ましい。

・枚方市の小中学校では、働き方改革の一環として、教諭が担っている事務作業の軽減を図るため、事務補助を担う職員を配置している。それにより教諭の時間外勤務の軽減と児童・生徒に向き合う時間の確保を目指すものであるが、生徒のケアや企業との協議など人と向き合う業務が多い、ここの学校現場に合うかどうかは定かではないが。

→保護者に対しても安心安全を提供するという観点では今のやり方をとりつつ、良い方法を模索していきたい。

・帰着連絡で先生と一言二言話だけで、リフレッシュでき、また明日から頑張ろうと思える子どももいるので、大切にしてほしい。

→帰着連絡で本人の困りごとを拾うことができるメリットもあると考えている。

<生徒の実態の変化について>

- ・就労データからみて、生徒の実態に変化はあるのか。

→9期生は企業就労という進路の割合はこれまでと比べると低かった。家庭環境も含め、様々な課題を抱える学年であったことも要因の一つと分析している。卒後に在宅の進路となった5名については、不登校の生徒であった。進路先については、学年、進路、家庭と連絡を密にとりながら進めていたが、企業就労が難しかった。他の企業就労ではない生徒に関しても、企業就労をめざしていく中で、生徒たちに合った進路選択ができたと思っている。あと、ご家庭の事情で学校に通うことが難しい生徒（自主通学、昼食の用意等）も在籍した。志願者数が定員を下回ったことも要因の一つかもしれない。

→7月から雇用枠が広がっていることから、障がい者雇用を考えているが、どのような進め方をされていますか？などの企業側から問い合わせが増えてきている。また、他にも最低賃金が上がっていることも関係してか、採用の判断の目は厳しくなっている印象がある。これまでであれば人柄重視であったところが、能力、スキルを見られることが多くなっている。事務職のスキルについてはタブレット、パソコンの部分、全体的なタブレットの活用でいうと、実習の事前学習については質が向上し、様々なことができるようになってきている。その反面、保護者が会社の名前、退職者数等を調べ、学校の方へ連絡くださることも多くなっている印象も受ける。どうしてもマイナスの情報が出ていることが多いため、学校側が会社と実際にやり取りしていることに耳を傾けてくださると有難いと感じている。以前はなかったことだが、保護者の向き合い方も変わってきている印象である。

・定員割れという状況もあり、大変だったのかな、という印象。約半数が企業就労ではなかった。過去なかったのではないかな。その中でもA型の進路が少ないということは、そういった状況でも先生方がそこまで引き上げたのだと感じている。学校のサポートを受けた後の社会に出た生徒の対応を就ボツが担っている。保護者のセンターへの期待値は高く、学校はそこまでやっていたんだと感じることが多い。50%の企業就労の数値が悪いとは思っていない。学校で3年間学び、成長した生徒たちに最も適

した進路の結果であると感じている。その中で、在宅進路の5名がセンターに来るのに時間がかかってしまう。20代をゆっくり在宅で過ごして、30代半ばに差し掛かった時に親がしびれを切らせてセンターに来られることが多いが、10年以上経験を積んでいない状態でセンターに来る方の苦しみ方はすごい。今後またどうなられたのかという情報は教えてもらえたら。

・中学校から課題がたくさんあった生徒も存在するとともに志願者数が定員を下回っている現状もある。自主通学のハードルも含め、入学後何のためにという想いがなければ、学校生活だけでなく、進路も難しい。社会につなげて卒業させたいという学校の想いも含めて、センターの関りというお話であった。新規開拓も進めながら、学校がどこをゴールにするのか、ということをよく考えて設定していくことが求められるのではないかな。何を大切にしていくのかを検討してもらいたい。

<生徒指導のSNS問題について>

・デジタル化に伴い、いろいろな問題が起きるように思うが、現場での課題について教えてもらいたい。

→例年、メッセージアプリの使い方等で指導が必要になる。夏休み明けにSNS講習を行っている。生徒たちからの報告で問題が表面化し、指導となることが多いが、今年度についてはまだ起こっていない。生徒が問題に巻き込まれないように、早め早めに対応していきたい。

<連絡事項>

- ・いただいたご意見を参考に学校として進めていきたい。
- ・本日の議事録については、ホームページに掲載いたします。
- ・第2回の開催については、改めて9月以降にご連絡いたします。
- ・第2回の学校運営協議会については、今年度の学校経営計画の進捗状況を中心に報告いたします。